



# 奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター  
 （奈良県保健環境研究センター内）  
**N a r a I D S C**



## ● 今週の概要

■ 今週の感染症情報

■ 全数把握対象感染症発生状況（平成 23 年 12 月）



（調査週） 平成 24 年 第 3 週 1 月 16 日（月）～ 1 月 22 日（日）

奈良県および二次医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週前からの動向）

順位	疾患	定点当り	奈良県	北 部	中 部	南 部
1	インフルエンザ	24.91	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑
2	感染性胃腸炎	10.23	↑	↑	→～↑	↑
3	RS ウイルス感染症	0.91	→～↑	→～↓	→	↑↑
4	水痘	0.77	↓	→～↓	↓	→～↑
5	A 群溶連菌咽頭炎	0.69	→	→～↑	↓	→

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

葛城および吉野保健所管内で、インフルエンザ定点当たり報告数が警報レベル（30.00≦）です（葛城：32.09、吉野：45.00）。

**県北部地区概況** 報告数は 837 例で、前週報告の 390 例から激増。上位 5 疾患は、①インフルエンザ、②感染性胃腸炎、③水痘＝A 群溶連菌咽頭炎、⑤RS ウイルス感染症の順。インフルエンザの報告数（199→614 例）は、激増。感染性胃腸炎の報告数（163 例）は、増加。A 群溶連菌咽頭炎の報告数（16 例）は、やや増加。RS ウイルス感染症の報告数（9 例）は、横ばい。水痘の報告数（16 例）は、やや減少。なお、インフルエンザ定点からの報告の内訳《（ ）内は定点当たりの報告数》は、奈良市 HC 管内；191 例（17.36）、郡山 HC 管内；423 例（26.44）で、両管内共に注意報レベル（10.0）を遥かに上回った。奈良市 HC 管内基幹定点から細菌性髄膜炎が 1 例（15～19 歳症例）、また、郡山 HC 管内基幹定点からは、マイコプラズマ肺炎が 2 例報告された。奈良市 HC および郡山 HC 両管内眼科定点からの報告はなかった。（村井 記）

**県中部地区概況** 報告数は、第2週の425例から第3週は762例と著明に増加した。

上位の5疾患（第2週→第3週）は、①インフルエンザ（185例→570例）、②感染性胃腸炎（148例→153例）、③RSウイルス感染症（11例→11例）、④咽頭結膜熱（7例→7例）、⑤水痘（44例→5例）＝突発性発疹（4例→5例）＝流行性耳下腺炎（15例→5例）の順であった。インフルエンザが大流行し1位に、感染性胃腸炎が2位に、RSウイルス感染症が3位に、咽頭結膜熱が4位に、水痘と流行性耳下腺炎は著明に減少し突発性発疹と共に5位になった。基幹定点からは、葛城HCよりマイコプラズマ肺炎1例の報告があった。眼科定点からの報告はなかった。

（徳田 記）

**県南部地区概況** 報告数（第2週→第3週）は96例→257例と増加。報告のあった疾患は①インフルエンザ（62例→186例）、②感染性胃腸炎（28例→42例）、③RSウイルス感染症（0例→12例）、④水痘（2例→6例）、⑤A群溶連菌咽頭炎（1例→5例）、⑥手足口病（0例→2例）、⑦マイコプラズマ肺炎【基幹定点】（2例→2例）、⑧ヘルパンギーナ（0例→1例）、⑨流行性耳下腺炎（1例→1例）であった。

（柳生 記）

**【全数把握対象感染症発生状況（平成23年12月）】**

平成23年12月に奈良県内の保健所に届出のあった全数報告対象感染症は、以下の通りです。

12月報告患者数（平成24年1月27現在）

類型	疾患名/保健所名	奈良市	郡山	桜井	葛城	内吉野	吉野	12月計
2類	結核	5	9	6	3	1		24
5類	後天性免疫不全症候群		1					1
5類	梅毒		2					2

（感染症情報センター 記）